

創立143周年



学校だより

は え 南風の子

中種子町立 南界小学校

平成28年5月10日(火)発行

立夏過ぎ、成長の気が長じる5月後半

新緑映える5月。若葉の間を吹き渡る風を「緑の風」と表現してきた先人の感性の豊かさを感じます。南界小学校近くの坂井公園では、地元の有志の皆さんの肝いりで飾られたたくさんのこいのぼりが中空を泳いでいます。初夏は、万物の成長する気が天地に満ち始める頃です。本校の子どもたちも、緑の風を受けて、もっともっと伸びていく“気”が身体に満ちていくような5月後半にしたいです。

校長 岡留 祐宏



こいのぼりにとどけ、1・2・3!

「根性」だけで毎日走れますか？

新鮮な気持ちでやる気を持って新学期をスタートしましたが、やる気を持続することの難しさを感じる頃でもあります。ある本に、次のような事例が紹介されていました。

普段運動をしていない大人6人でチームを作り、フルマラソンを一緒に走ろうと目標設定する。「2週間で、週2回、30分歩く」というもの。(これなら、なんとかできるような気がします)それを少しずつ、30分の内5分は走る、それを10分に、15分に…。と、その結果、半年後には、6人全員がフルマラソンを完走したということです。

つまり、大きな目標達成のために、まずは、小さな目標をつくり、少しずつ時間や回数、強度を高めていくという方法です。「やり遂げた」という達成感を得て、「自分にもできるぞ」という自信を引き出すことが継続のポイントであるということです。しかも、小さな目標は「数値化」しておくことが大事であるとも。「5分」「週に1回」と具体的に数えられることで、「できた」と感じられるからということです。

この取組のもう一つのポイントは、「フルマラソンを一緒に走る」という目標を共有できる仲間と一緒に取り組んだということではないかと思います。教育活動にも自分自身にも、「やる気の持続」方法として参考にしたいと思いました。(出典：行動科学マネジメント研究所長 石田淳氏著作「根性だけで毎日走れますか」)

小中連携で取り組む「基本的学習習慣」の育成

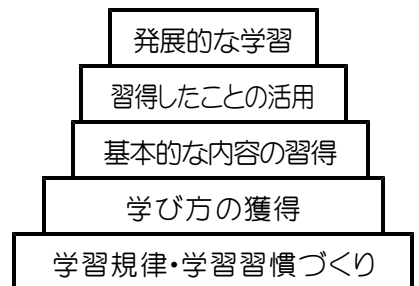
従来、学力は「基礎的な内容をどれくらい身に付けているか」で測ってきました。近年は、全国学力調査のように、「習得したことを活用して問題が解決できるか」という点からも学力を測っています。

実は、右図のように、「基本的な内容習得」や「活用」等を支える土台として、「学習規律・学習習慣」はとても大切です。これまでも、各学校で学習ルールや学習習慣の定着に努めてきたところです。

本年度、熊毛地区では、各学校での取組をさらに進め、小・中学校の9年間で一貫して、学年段階に応じた「基本的な学習習慣」の育成に取り組むことになりました。現在、町内の全小学校と中種子中学校で、「授業中の前中後の学習習慣」と「家庭学習等の習慣」について検討しています。学校と家庭が連携した取組を、町内全小中学で取り組むこととなります。詳しい内容は改めてお知らせします。

【学力の積み上げモデル】

東北大学大学院 堀田教授



この図の全体が、「学力」という考え方です。

う歯治療の取組

平成25年度から、熊毛地区全体で「う歯治療の徹底」に取り組んでいます。治療率の変遷を見ると、25年度は63.9%、26年度は68.5%、27年度は70.1%と、治療率の向上が進んでいます。本校も昨年度は治療率90%と向上しています。治療率だけでなく、むし歯を増やさない取組が並行して必要です。